

【随筆】

もう師走ですよ！

住 吉 尚

(釧路支部)

さすがに11月にもなると山の木々もほとんど葉を落として地肌が見えるようになります。釧路から国道44号を東に行くと、延々と道の両側はシカ柵がありますが、柵の向こう側は明らかに草丈が低くなっています。シカが食べて短くなったのですが、和人が開拓する前の山々は、現在私たちが見ているようなササ藪ばかりではなかったのかもしれませんが。もしかしたらこのササ藪は明治期以降のシカの減少と木々の伐採によってもたらされた可能性が高いのでは？と思い始めています。それにしてもシカの食欲には驚かされますね。

日曜日はまたまた釣りでした。私はなるべく日曜日には釣りに行かないことにしているのですが、今日は友達からの誘いがあったので釣行となりました。皆さんもそれぞれ毎日のリズムと言うものがありますよね。私は年金生活者になってから、何時でも釣りに行けるのであまり朝早くから釣りに行かなくなりました。そして釣りをする時間もせいぜい2～3時間と言う状態を崩したくはありません。朝起きてどんなタイミングで家を出るか、と言うのは人によってばらばらでも良いとは思いませんか？それで私は、好きな時間に家を出て現地集合と言う方法を提案しました。釣り場までは1時間ほど。私が釣り場に着くと2人はすでに釣果を重ねているところでした。でもすでにカレイの時期は過ぎていますから、目当てのクロガレイはなかなか釣れません。次から次から釣れてくるのはカジカばかりで、たまにコマイが釣れると言う状態でした。コマイもカジカもクロガレイも、産卵のために浅い所に来ているのですが、産卵はカジカが一番早く12月までに、コマイは年末頃でしょうか。カレイは春先の4月頃のような感じです。この3種は11月には皆卵巣が大きくなっていますから、魚卵を好む人には良い釣り時期と言うことになるのでしょうか。カレイの中でもババガレイなどは卵巣が大きくなると内臓が圧迫されて餌を食べなくなると言います。クロガレイもそれに近い状態になるためでしょうか、なかなか餌を食べてはくれません。でもこの日釣れなかったのは腕の悪さと場所選びのまずさが大きかったのでしょうか。あまり釣れないので、



オオバンです

あちこち場所を変えてみましたが、さっぱりで終了となりました。それでも沢山のカモ類やオオバン、そして頭上を越えて飛んでいくオオハクチョウ、そして遠くにはタンチョウの声。日本で最も自然が豊かな道東の行く秋を体いっぱい受け止めながら、気の合う友人との交流をし、僅かばかりではありますが釣果も得て、満足な一日でありました。

写真にはオオバンを使ってみました。オオバンは額が白いのが特徴です。季節は冬、岩見沢などはもう積雪が30cmを超えているとか。日本海側の札幌や岩見沢ではもう根雪なのでしょうね。最近の野外観察の様子をお話すれば、ハクチョウはほぼ南下したようで、すでにここで越冬する個体だけが残っているためでしょうか、ずいぶん個体数が減っています。風蓮湖周辺を観察したところでは、風蓮湖の北側にはほとんどハクチョウは残っておらず、南側に数百羽が見られただけでした。これは風蓮湖の北側がほぼ全面結氷してしまうためでしょう。タンチョウは繁殖地を離れてデントコーンの刈り跡などで採食していますから、あちこちで観察することができます。湖で見られるカモ類もどんどん南下しているのでしょうか。風蓮湖では水上に群れているカモにオジロワシが近づき、カモが一斉に飛び立つようすが見られました。ワシは空中ではあまり小回りが利かないので、空中でカモをつかむことはあまりありません。飛びあがるのが遅れて水面に取り残されたカモを襲うのですが、こうなるとカモは水に潜って逃げます。この時、水が深いとワシが思ったところからは離れた場所で息継ぎができるのですが、水が浅いと潜っている場所が空中から見えるということになり、水から出てきたところを襲いかかると言うことになります。私は風蓮湖の湖畔でタンチョウのヒナをつかむ作業中に、目の前で水から出てきたカモをオジロワシが捕まえて飛び去るのを見たことがあります。またウトナイ湖では水に潜ったカモをワシがしつ

こく狙うところを見たことがあります、この時はカモが逃げ切ってワシが諦めました。ワシは体重があるので空中でホバリングするには大変な体力がいるでしょう。

さて今日は飯寿司の準備です。塩漬けしてあった魚を取り出し、塩を洗って一口大になるように切ると、一口に言いますが、塩でガチガチになった鮭を三枚におろすだけでも大変な力仕事です。来年はガチガチの塩に漬ける前に三枚におろしておこうかと思いました。なんだかんだでへとへとになり、塩抜きをるところまでで一日がかり、次の日には野菜などを切って麴を用意したところまででもう一日、3日目にやっと漬け込み作業を行いました。これで40日ほど置くと飯寿司のでき上がりとなるはずなのですが、今年は気温が高く、発酵が早まると30日でも良いかもしれませんね。とは言え、我が家での最大のイベントも無事終了となりました。後は年賀状書きをするともう年越しですね。今年はコロナに振り回されて何時もの年とはずいぶん違ったものになっています。こちらの方はまだまだ感染が広がりそうな勢いですから、皆さんも充分な予防対策をしてお暮しくください。それにしても札幌や旭川は大変ですね

ところで今年は新型コロナウイルス感染症ばかりがニュースをにぎわしていますが、我々獣医の分野では冬になるとともに、ニワトリの恐ろしい伝染病である高病原性鳥インフルエンザが心配になりますね。これはご存知のように野生のカモ類が冬になるとシベリアなどから日本へと渡って来るために流行する病気です。野生のカモ類は高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染しても発症することはないようですが、種が違くと感染に対する症状の出方も違いがあります。これが他の鳥類、例えばハクチョウなどに感染すると、発症して時には死に至ると言うことになります。ニワトリはこのウイルスに特に弱く、農場での大量死につながるので養鶏農家には恐れられている病気ですね。今年初めて高病原性鳥インフルエンザウイルスが確認されたのは10月24日紋別市でのことでした。これは野性のカモの糞便から出たもので、これ自体は特に驚くようなことではありません。その後、11月に入って拡がり始め、香川、福岡、宮崎、奈良、広島と、養鶏場での感染が確認されています。北海道では冬が寒いので小河川や小さな沼などはすべて凍結してしまいますから、大部分のカモ類はさらに南下して本州の比較的暖かいところで越冬します。ご存知のように瀬戸内海沿岸は日本の中でも温暖な所として知られていますよね。冬の北風は中国山地で遮られ、夏の南風は四国山

地で遮られますから、雨量が少ないことでも知られている所です。昔から塩造りが盛んだったのもそんな気候からでしょう。でも雨が少ないので昔から水田耕作のための水の確保には苦勞して、たくさんのため池があることでも知られています。このため池やここから田んぼへと続く配水路に沢山のカモ類が越冬のために飛来しているのだそうです。そんな事情からでしょうか、香川県から高病原性鳥インフルエンザが出て、その後はあちこちから感染報告が出ていますね。今年出ている高病原性鳥インフルエンザウイルスは今のところH5N8と言う型のインフルエンザウイルスだけのようですね。野生のカモ類からのウイルスの検出は鹿児島県からも報告があるようです。確かにインフルエンザウイルスを日本に持ち込んだのは野生のカモ類でしょう。でもそれだけでは農場のニワトリには感染しません。ネズミやズメ、カラスなどを介して農場内にウイルスが持ち込まれるのですが、人間の靴底もウイルスを持ち込む可能性が高く、今回の香川県での発生も同じ系列の養鶏農場に発生しているところを見ると、人間の関与が疑われますね。このウイルスはコロナウイルスと同様に、低温で乾燥した環境で長く感染力が持続しますから、冬期に乾燥する地方では警戒が必要です。乾燥したカモの糞が飛散しやすくなると言うのも感染拡大の要素でしょうか。野生のカモ類の中でもオナガガモと言う種類は足輪を付けて行動を調査した結果では、ヨーロッパで足輪を付けたカモがアジアで捕獲されたりアメリカで捕獲されたり、またこの反対もあるとかですからH5N8と言う型のインフルエンザウイルスが世界中に広がったのはこのカモが関与している可能性が高いと思われます。これはオナガガモが冬にはどこで越冬するかを決めていないからではなく、お隣さんであっても、私の家族はアメリカへ、うちはヨーロッパへ、と言う決めがあるのでしょうか。でもその子供たちがどの家族の子と結婚するかで、初年度と次の年では違う場所で越冬することになると言うことのようにです。でもこんな渡りをする鳥は他にはいません。

少しさかのぼって11月26日のことです。新富士に所用があり、久しぶりに鶴見橋を渡りました。すると新釧路川の川面に沢山のカモメが浮いていました。これはシシャモが遡上したためでしょう。私が動物園勤務だった頃は、ほぼ毎日この橋を渡っていましたが、その当時はシシャモの遡上と言えば11月21日か22日と決まっていたように感じていました。それが最近では少し遅れてきたようです。そして今年のシシャモの水揚げは記録的な不漁でもあったとか。地球の温暖化で徐々に気温や海水温



ラッコ

が上がって、サンマもサケもさらにはシシャモまでが影響を受けるとは！温暖化が釧路の産業に何か良い影響があれば良いのですが、現在までのところは悪い影響ばかりが報道されていますがどうなのでしょうね。漁業的には難しいことばかりですね。それにしても釧路から製紙工場が一つ消えるなんて！これからの釧路はどうなっていくのでしょうか？心配ですね。コロナ感染症のこともあって最近悪いことばかりのニュースです。

さて12月ともなれば魚釣りの方はさっぱりですから、時々ラッコを見に出かけています。最近ではよく探しさえすればほぼ間違いなく出会うことができます。私がラッコを見に行くのはもっぱら霧多布岬です。それは車を降りて何ほども歩かなくても見られるからにほかなりません。ここは最近ラッコを見に来る人が増えました。ただラッコを知らない人はどこを探せばよいかを知らないで、見ることができないまま帰る人もいるのは残念ですね。そこで霧多布岬でのラッコ探しのコツを一つ。ラッコは水面に横になって浮いていることが多いので、大きく見えますから、いれば簡単に見つけることができます。霧多布岬は南西側が外洋に面していて波が荒いので、大抵は北東側の波が穏やかな方にいます。でもこちら側は断崖絶壁が続いているので、身を乗り出すようにして波打ち際に近い部分を探してください。ただくれぐれも柵を乗り越えないように！落ちたら命はありませんよ。ただ岩に上がって寝ている時は探すのが大変難しいですよ。できれば1時間ぐらい時間をとってゆっくり眺めてみてください。そのうち、「エーこんなところに！」と言う所でお目にかかることができるでしょう。ラッコを簡単に見るには見物から戻ってくる人に気軽に声をかけ、「ラッコ見ましたか！」と聞くことです。ラッコが面白いのは崖の上の人をほとんど気にしていないように見えることです。とても自然な姿が見られますよ。ときどきアザラシも見えますのですが、こちらは頭だけ出して周り



ハギマシコの雌

を見回していますから、ずいぶん小さく見えますし、ラッコよりはかなり深い場所で生活しているようで波打ち際までは寄って来ません。そして彼らは崖の上にいる人間のことを十分意識しながら行動しているように見えます。これはアザラシが近年まで狩猟の対象であったことによる影響でしょうか。ラッコは狩猟の対象から外れてからずいぶん長い時間が経過しているので、あまり人間を警戒しないのかもしれませんがね。遊歩道ではこの日ハギマシコの雌を見ました。もっと珍しい鳥はいないかなー！

〔行儀よく
三密さんみつさける初詣〕

〔マスクごし
近況かはす初詣〕

〔願はくはコロナ退散初詣〕

〈句題〉
初詣はつまつで

(室蘭市 白波瀬 稔歳)